

指定管理者制度導入施設評価票

評価対象年度	令和5年度		
施設名	環境と文化のむら	設置年	平成 7 年
所在地	南秋田郡五城目町上樋口字山田沢156番地の1		
指定管理者	むつみ造園土木株式会社		
県所管課	自然保護 課	調整・自然環境 チーム	

1 施設の概要

設置目的	里山の自然と触れ合い、及びその自然のもたらす恩恵により築かれてきた文化について学習する機会を提供することにより、人と自然との関係について理解を深め、もって県民の環境に関する意識の高揚に資する。					
県の施策上の施設の位置付け	新秋田元気創造プランや各分野の個別計画等における施設の位置付け・目標 生物の多様性の確保と自然公園等の適正な管理					
	新秋田元気創造プランや各分野の個別計画等における目標を達成するための 取組として施設に求められているもの 自然環境学習拠点施設等の利用者数の増加					
施設の面積	51.90ha					
主な設置施設	自然ふれあいセンター、愛鳥山荘、炊事棟、野鳥観察舎					
指定管理業務の内容	料金制	有（利用料金併用制 ・ 完全利用料金制） <input checked="" type="radio"/> （指定管理料制）				
	料金設定					
	サウンディング実施対象施設※	×				
	指定期間	H31. 4. 1		～	R6. 3. 31	
	営業期間・時間	通年（月曜日と年末年始は休み）午前9時～午後5時				
		(1) 自然ふれあいセンターを主とした使用の許可等に関する業務 (2) 施設及び設備の維持管理に関する業務 (3) 秋田県環境と文化のむらの利用の促進に関する業務 (4) 環境と文化のむらの管理に関し知事が必要と認める業務				
自主事業の内容	○年15回に増やした定期自然観察会の充実、利用者ニーズ把握・反映 ○環境省及び日本野鳥の会秋田県支部との野鳥観察会や作品展示の相互連携 ○自然ふれあいセンター、愛鳥山荘の利用（写真展、企画展） ○五城目町「きゃどっこ祭り」等、イベント連携					
直近3年の年間利用者数	R3	14,139 人	R4	12,740 人	R5	11,703 人
直近3年の年間利用収入	R3	千円	R4	千円	R5	千円
直近5年の収支決算(単位:千円)		R元	R2	R3	R4	R5
収入計		6,427	6,546	6,546	6,585	6,599
利用料金収入						
指定管理料		6,427	6,546	6,546	6,546	6,546
その他収入					39	53
支出計		6,699	6,276	6,543	6,893	6,602
人件費		4,241	4,191	4,231	4,839	4,662
光熱水費						
修繕費						
外部委託費						
その他経費		2,458	2,085	2,312	2,054	1,940
差引		▲ 272	270	3	▲ 308	▲ 3

※単年度維持管理・運営費が1億円以上の公募施設について、民間事業者の意見を参考に運営手法や公募要件を検討するため、指定期間終了の3年前にサウンディング(官民対話)を実施する。

2 観点ごとの評価

<観点 I> 施設の設置目的（施設の目指す姿）の達成に関する取組

【ポイント】

施設の設置目的(施設の目指す姿)を達成するための取組がなされ、その効果があったか。

○指定期間における運営方針・施設の利用目標

(R6年度以降に指定管理を開始・更新する施設から基本協定書に定めることとなっているため、それまでは記載不要)

○目標の設定(毎年度、県と指定管理者が協議の上、業務計画書に定める目標)

令和5年度 の目標	利用者数 13,500人
--------------	--------------

○指定管理者による実績報告

令和5年度 の実績	実績	11,703	達成率	86.7%
	具体的な 取組と その効果	野外活動を安全安心に楽しめる施設を目指し、魅力ある定期観察会の実施や自然工作などの利用も随時受け入れた。幼保・小学校など教育関連の団体利用はもちろんのこと様々な世代の団体利用も受け入れた。クマ出没影響もあり、なかなか従来通りの人出が戻らなかったが、キャンプ利用はクチコミにより例年より多く利用された。		
直近3年 の実績	年度	R2年度	R3年度	R4年度
	目標	16,500	16,000	14,500
	実績	14,634	14,139	12,740
	達成率	88.7%	88.4%	87.9%
令和6年度 の目標 (設定根拠)	目標	13,000人		
	設定根拠	幼保、小学校など教育関連の団体利用を促進させ、ふれあいセンター8,000人、自由散策4,500人、文化の館500人の全施設合計13,000人を目指します。		

※指標が複数ある場合は欄を適宜追加すること。

<観点 I> の評価

	評価者	評価	コメント
評価欄	指定管理者	B	団体利用促進や魅力ある定期観察会の充実などに取り組んだが、来園者数に影響を及ぼした大雨や猛暑など異常気象、更には秋田県ではクマ目撃と人身被害が過去最多を記録したことにより、クマ被害を危惧する県民意識が高まった一年となりました。特に保育園・幼稚園児や小学校などの来園者が伸び悩んだことが原因として挙げられました。その中でもキャンプ利用が増加し、冬期間には多くの方々で賑わいました。
	県 (所管課)	B	天候やクマの影響による利用者の伸び悩みは地域の特性上やむを得ないものである。

【評価基準】次の基準により評価。基準によらず各区分に相当すると認められる場合は、コメント欄に理由を付すこと。
また、施設の設置目的(施設の目指す姿)を達成するための、指定期間における運営方針・施設の利用目標について、指定期間開始年度から評価対象年度までの達成状況をコメント欄に記載すること。

A: 目標達成(数値目標の場合は100%以上)

B: A及びC以外

C: 目標達成に向けて改善が必要(数値目標の場合は80%未満)

<観点Ⅱ> 施設の有効性（利用者の満足度）の向上に関する取組

【ポイント】

サービスの質を維持・向上するための具体的な取組がなされ、その効果があったか。

○指定管理者による実績報告

利用者満足度 令和5年度 の実績	実績	95.7%		
	具体的な 取組と その効果	参加者や団体利用では小さな子供が多いので、アンケート取得は難しく、記入式はなかなか得られないが、定期観察会での満足度確認したり、声掛けをして意見・要望を吸い上げる取組をした。自然の中ではあるが安全安心、快適で美しく、利用者を楽しませる維持管理に努めた。		
利用者満足度 の状況 (直近3年)	R2年度	R3年度	R4年度	
	98.0%	98.7%	96.8%	

<観点Ⅱ>の評価

評価欄	評価者	評価	コメント
	指定管理者	A	当施設は里山環境であり、自然状況は日々変化して危険や注意も必要ですが、あまり制限をかけずに自由に野外活動を利用して頂き、散策や自然工作なども行い、安全安心に自然とふれあい、自然の素晴らしさを身近に体験できる様に対応した。
県 (所管課)	A	引き続き高い満足度を維持している。	

【評価基準】次の基準により評価を行う。基準によらず各区分に相当すると認められる場合は、コメント欄に理由を付すこと。

A: 満足度80%以上 B: A及びC以外 C: 満足度60%未満

<観点Ⅲ> 効率性の向上等に関する取組

(1)経費の低減

【ポイント】

施設の管理運営(指定管理業務)に関し、経費を効率的に低減するための十分な取組がなされ、その効果があったか。

○指定管理者による実績報告

令和5年度 の実績	経費の 低減実績	指定管理料に占める人件費の割合が7割以上となっており、最低賃金値上がりや人手が少ない状況で、人件費は削減できないので経費を効率的に低減させる取組みはできなかった。
	具体的な 取組と その効果	光熱費の節減として、事務所・研修室・工作室の冷暖房や照明灯、自動ドアについて適正管理を行い、管理運営に支障なく、お客様にご迷惑をお掛けしない範囲での節電を行いました。補修が必要となる箇所の早期発見・早期修繕に努め、修繕を必要とする作業は出来る限り外注労務に頼らずに、常駐するスタッフにより行いました。

※費用の総額では効果が計れない場合は、例えば利用者1人当たりの単価を算出する方法等も考えられる。

(2)収入の増加 ※指定管理料制施設を除く

【ポイント】

収入を増加するための具体的な取組がなされ、その効果があったか。

○指定管理者による実績報告

令和5年度 の実績	収入の 増加実績	料金収入に該当する項目はありません
	具体的な 取組と その効果	—

<観点Ⅲ>の評価

	評価者	評価	コメント
評価欄	指定管理者	B	指定管理料に占める人件費の割合が7割以上と高いため、質の高いサービスの提供を行うために経費低減は難しいが、作業効率化、無駄な動きや手戻りなどを無くし、従事する人のレベルアップを計ることで経費削減に取り組んだ。
	県(所管課)	B	経費の節減に努めている。

【評価基準】 次の基準により評価を行う。基準によらず各区分に相当すると認められる場合は、コメント欄に理由を付すこと。

A: (1)経費の低減、(2)収入の増加とも前年比で5%以上改善

B: A、C以外

C: (1)経費の低減、(2)収入の増加とも前年比で5%以上悪化

<観点Ⅳ> 公の施設にふさわしい適正な管理運営に関する取組

【ポイント】

施設の管理運営（指定管理業務）の適切な実施に向けた具体的な取組がなされ、その効果があったか

○指定管理者による実績報告

令和5年度 の実績	<p>(1)様々な世代対応、様々な利活用 利用促進加速 ⇒実施済 幼稚園・保育園、小学校への安全安心PR、自然環境学習の充実 愛鳥山荘の利活用促進</p> <p>(2)施設魅力PR・情報発信強化 ⇒実施済 近隣市町村(潟上市、五城目町、井川町、八郎潟町)の広報誌 その他新聞や地方誌、様々な情報媒体、HP更新</p> <p>(3)安全安心・自然とのふれあいを密に ⇒実施済 クマ対策(電気柵、草刈)、巡回強化 ヤマビル、ハチ、ヘビなど危険生物対応</p> <p>(4)他施設・関係機関との連携強化 ⇒実施済 近隣の魅力ある施設との連携、五城目町との連携</p> <p>(5)自然・里山を活かした有効利活用 ⇒実施済 近年利用増加のキャンプ施設対応 樹木・動物との関わり</p> <p>(6)自然観察・クラフトの充実 ⇒実施済 観察会の充実、魅力ある・楽しい・興味をもたせる</p>
--------------	--

<観点Ⅳ>の評価

	評価者	評価	コメント
評価欄	指定管理者	B	今年度は大雨や猛暑など異常気象、さらにはクマの出没など来園者数減少に大きな影響を及ぼし、最後まで利用者数を回復させるまで至りませんでした。周辺でも檻でクマが捕獲されるなど脅威がありましたが、当施設は電気柵を設置しており、絶対安全ではないですが、施設内でのクマによる被害・人災は無かったことに安心しております。その中でも定期観察会は好評で、期待に応え楽しい観察会を実施しました。またキャンプ利用者は冬期間に大幅に増加しました。今後は様々な世代や団体利用を増やす取組を継続して行っていきます。
	県(所管課)	B	適切な管理運営に努めており、重大な問題点は見受けられない。

【評価基準】 A: 順調(改善点なし)、B: 概ね順調(重大な問題点なし)、C: 改善が必要(重大な問題点あり)

県(所管課)の評価においては、モニタリング結果を踏まえて評価を行う。

【県の施策達成に向けた県所管課の施設運営に対する考え方】

※全施設記載

○県の施策の達成状況(施設を運営することで、県の施策がどの程度達成されたか等)

地域の恵まれた自然とふれあい、学習できるエリアとして活用されており、県民の環境保全の意識の増進、環境教育・環境学習の推進等に寄与している。

○施設運営の課題

施設の老朽化

○今後の方向性(県の施策の達成状況や課題を踏まえて、今後所管課としてどのように対応していくか等)

引き続き必要な修繕等を実施しながら管理運営する。施設の老朽化が進んでいるため、将来的な大規模修繕の含めた施設のあり方について検討する必要がある。